

平成 28 年度第 2 回安曇野市博物館協議会 会議概要

- 1 会議名 平成 28 年度第 2 回安曇野市博物館協議会
- 2 日時 平成 28 年 10 月 28 日 午前 10 時分 00 から午前 11 時 30 分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 3 階 共用会議室 306
- 4 出席者 笹本会長、滝沢委員、浅川委員、金井委員、高原委員、細野委員、宮澤委員
山田教育部長、那須野文化課長、百瀬館長（豊科郷土博物館）、荒深館長（豊科近代美術館・飯沼飛行士記念館）、斉藤館長（田淵行男記念館）、大月館長（穂高陶芸会館）、宮下館長（高橋節郎記念美術館）、清水館長（貞享義民記念館）、
- 5 担当課出席者 三澤文化振興係長、西山博物館係長、逸見博物館係主査、松田博物館係員、丸山文化振興係主事、百瀬文化振興係員
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 1 人 記者 1 人
- 8 会議概要作成年月日 平成 28 年 11 月 15 日

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開 会 （那須野文化課長）
- 2 あいさつ （山田教育部長）
- 3 報告・協議
(1) 平成 28 年度各館事業進捗状況及び平成 29 年度事業構想について
(2) その他
- 4 その他
- 5 閉 会 （那須野文化課長）

○協議概要

(1) 平成 28 年度各館事業進捗状況及び平成 29 年度事業構想について

●資料内容説明（各博物館・美術館長）

●委員からの意見

会長・・・ それでは、委員の皆さんのからご意見をいただきたいと思います。具体的にそれぞれの館にとって役に立つような、今後の事業展開のなかで提言となるようなご意見をお寄せ頂ければ幸いです。

委員・・・ 来館者数だけが独り歩きして、その数字の大きさだけを求めるのはよくありません。

非常に企画がたくさんあって学芸員と担当者の皆さんは大変だと思いますが、中心となる学芸員の調査研究のための時間は確保されているのでしょうか。

郷土博・・・ 非常にたくさんの講座や企画展があり、付随する調査研究等は、ほとんど毎日誰かが行っている状況です。決して調査研究ができていないとは思っておりませんが、非常に厳しい勤務時間のなかで苦勞してやっているのが実情です。それが本当に博物館の財産として将来につながるかということ、難しいと思いま

す。どうしても単年度契約の学芸員に、3年後5年後を見越して、というのは限界があります。

近美・・・やはり学芸員の経験の差があります。10年くらい経験のある学芸員は、常設展にかかわる作家の調査研究はかなりできていますが、経験の少ない学芸員は、どちらかといえば次年度の企画展に向けての調査、資料収集をします。どうしてもそれに追われてしまうし、他の業務もあるので、なかなか調査研究にだけ集中できる状況ではありません。

田淵館・・・田淵行男記念館も同じような状況です。学芸員自身は調査研究以外にも館の仕事でやるのがたくさんあり、お客さんの相手をしたりレジを打ったりしている。それは事務員も館長も同じで、みんなで助け合ってやっています。

飯沼館・・・飯沼飛行士記念館には常駐の学芸員はおりません。

節郎館・・・膨大な資料を整理している最中で、まだかなり残っているので、日常の学芸員活動に時間がないことは確かです。

会長・・・展示というのは仕事のほんの一部であって、お客さんへの対応などに時間を割かなければいけない。ほとんどの学芸員は家に帰ってから講演や展示の準備をしています。企画展示にある程度時間をかけるためには、企画展示の回数を少なくして、この委員会で「今までと違ってお客さんの量ではなく質的な部分で評価しますので、回数を減らして結構です」くらいのことを提言していかないといけないと思います。

コンパクト展示のような今までにないものを作るということは、それにかかる時間が必要ということです。仕事が全体として減ることはなく、市民の皆さんの要望によって付け加えるのが現状ですので、できたら「学芸員の研究時間は保証されているのか」という視点から、今後の博物館等の企画展示に関してもご意見いただければ良いかと思います。

委員・・・何の余力もないところに次から次へと企画を考えると、企画だけの話になり、自分自身のイメージーションがなくなってしまうのではないかと思います。会長のおっしゃったことには賛成です。

会長・・・本来であれば博物館は10年先、20年先にどうあるべきか論議されないといけない。まずは「5年後、10年後はこうありたい」というものを各館で示していただいて、少し先のことまで計画の中に入れていって欲しい。

学芸員については、1年ごとの契約ではよくないことを委員全体が認識して、本委員会として申し出をしていかなければならないし、ほかにも色々な活動の仕方があると思います。ほかにはいかがでしょうか。

委員・・・今のお話に賛同しております。何が重要かということと人事、つまり学芸員をどれだけ育てていけるかということです。先ほどの企画数をどうするのかという話と同じくらいに、学芸員に対する適切な配慮や手当が、このような場で訴え

られなくてはいけないと思います。

それから、学芸員の研究発表の場として研究紀要はどのくらい実現しているのか。紀要が出せないような館も、多くが一体となって博物館群として研究紀要を毎年出すというのもいいのではないのでしょうか。非常勤契約や嘱託の学芸員であっても、そこで論文を書くことがキャリアを蓄積する上でのメリットとなれば良いと思います。安曇野市で正式な雇用ができなくても、安曇野で育った人材が学芸員として各地に広がっていく。学芸員を育てる町をつくるには、いろんな方法があるのではないかと思います。

郷土博・・・市の直営になった5年前から研究紀要を刊行しています。学芸員はもちろん、関わりのある外部の方、さらに窓口の事務職員も原稿を書いています。質的にはまだまだですが、博物館の職員としてそういうことにも取り組んで欲しいと日ごろから言っています。ただし、先程も言ったとおり勤務時間のなかで良い原稿を書くのは難しいです。来年、再来年の保証がないのに、今のところで全力を出せというのは矛盾があります。何としても長期的な見通しを持った組織の体制を希望しています。

会長・・・学芸員が地域の文化を主導できるようになっていかないと、地域全体の文化が向上しない。現状として、即座に博物館は作れないから、せめて学芸員だけでも育てようという形で市へ要望しています。

もう一点、紀要は各館で出せばいいのかということです。作れないところはどうかという問題もあります。安曇野市として、紀要が出せない館も含めて作っていく方向を今後考えていく必要があります。

市には人材の確保と紀要のあり方を検討してもらえたらと思います。

委員・・・茅野市では「市民学芸員」というボランティアの取り組みがあります。そういうボランティアをつくり、学芸員の研究の手助けや補佐をしてもらうというのはいかがでしょうか。

郷土博・・・まだまだ不十分なところがありますが、市民の皆さんと一緒にワークショップのなかで民具を保存・修復したり、それを実際に制作することで技術伝承の役割を担う活動をしていますし、戦時生活部では、先の大戦の直接体験者の方の協力を得たり、資料を収集することを市民の方に担ってもらっています。ようやくそういったことに手がつきました。

委員・・・学芸員は専門性を持っていますが、得意でない部分を補えるように、有識者に市民学芸員として登録していただいて、サポートする体制があれば良いと思います。そんな仕組みを考えていただけたらと思います。

会長・・・一方で、ボランティアの育成には手間がかかるという問題があります。これを統括できる人が必要になりますが、今の博物館にそこまで人員がいるかというところからお考えいただきたい。また、ボランティアという名称ではなく「サ

ポーター」として、学芸員と一緒にやっていく方向性をしっかり決めたほうがよいと思います。ややもすると、ボランティアのなかでリーダー的存在やグループができ、学芸員よりも館に影響を持つ人が出てきてしまう。きちんとサポーターを動かせる組織・人材がないと、かえって問題になります。各館の状況に合わせて考えていただきたい。

委員・・・ サポーターについては良いと思います。あとはギャラリートークリレーのように、ひとつの館だけではなく市内、近隣の市町村と連携をとってやっていければいい。

会長・・・ 今は市全体がより良くなるために、横の連携をしていく時代です。色々な方策を委員の皆さんに提案していただくことによって、より動きやすくなります。

博物館で一番大事なのは研究ではなく、資料がどのように収蔵され、次の時代に伝えられようとしているかということです。展示はごく一部の機能だということを、市民の皆さんに理解していただかないと博物館は成り立ちません。

各館それぞれの課題は重なる部分とまったく違う部分があります。そういうところについて、委員の皆さんから意見をいただくことで前に進むことができます。ほかにありますか。

委員・・・ 先日の郷土博と県立歴史館が共催した講演会について、質疑応答の時間をとってよかったのではないのでしょうか。

会長・・・ その場にいなかったのでもわかりませんが、自分の意見を語るだけになってしまう人がいるので、私の場合は質問を受け付けることはあまりしません。そういうこともご理解いただきたいと思います。

郷土博・・・ 講演の後に、展示を見てもらいながらギャラリートークを行いました。ずいぶん多くの方から質問をいただきました。ご案内をしっかりとせず申し訳ないでした。

委員・・・ 最初の頃より各館のPRが上手になったと思います。各館について「こういう展示資料もあったのか」と来館して初めて知る市民の方もいる。そういうところをPRしていけばいいと思う。

現在、いくつかの館で出前展示や出前講座をやらせてもらっていますが、1回きりではなく次の年にも引き継いでいけたらいいと思います。少しずつ内容を変えていけば、次の新しい展示に繋がるのではないのでしょうか。

会長・・・ 全体的に目的意識と対象がはっきりしていないように思います。次の時代を作っていく子どもたちが大事だと各館で言っていますが、予定事業を見ても、どれが子ども対象で何をするのが明確ではありません。逆に年齢を重ねた人に対してはどういった展示があるのかも分かりません。それぞれの年齢層ごとの展示手法を考えなければならないと思います。

もう一つは、10年後、20年後こうしたいというのを、そろそろ考えておい

ていただきたい。まずは館の記念日や、5年先、10年先にどうあるべきか、そしてその中で来年度はどういう位置を持つのかというのを今後の構想に入れていただければ、論議しやすくなると思います。

それでは、これで報告・協議は終わります。皆様のご協力、ありがとうございました。

(2) その他

●新市立博物館構想、学芸員研修について（事務局）

●次回会議予定について

事務局・・・ 次回の会議は平成29年3月下旬を予定しております。29年度事業計画について具体的なお意見をいただきたいと思います。よろしくお願ひ致します。本日は長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。